

令和2年度改訂

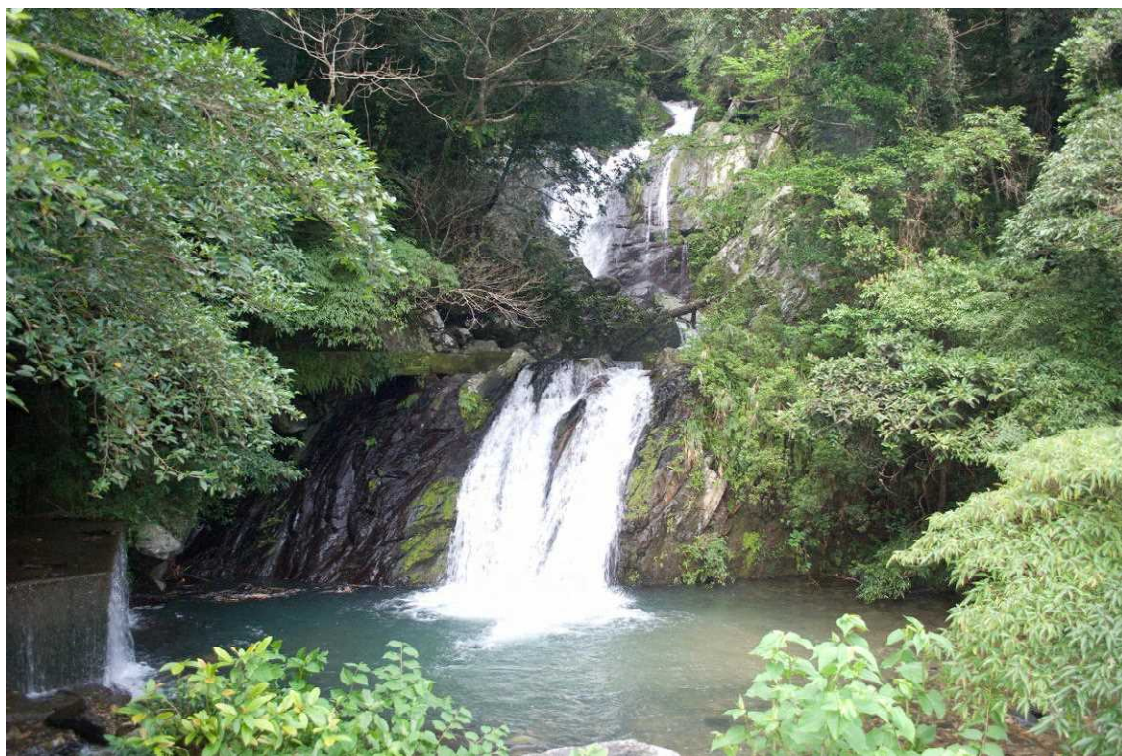
授業研究

大島の教育 Pamphlet3

奄美のよさを生かした活力ある教育の充実

授業研究・教師の学び

～指導力向上のために～



令和3年1月
大島教育事務所

目 次

大島の教育Pamphlet3ダイジェスト版	1
I 鹿児島県の教員に求められる資質とは	2
1 かがしま教員育成指標の活用	2
2 総合教育センター作成「T-T R A S T E (研修履歴ファイル)」の活用	3
II 授業研究とは	4
III 一人で行う授業研究	5
1 放課後の振り返り	5
2 ノート(ワークシート)の点検	5
3 授業ノートへの記入	5
4 授業録画データの視聴	5
5 児童生徒による授業評価	6
6 質問カードの活用	6
IV 同僚性・協働性を高める全体授業研究	7
1 事前検討会の実施	7
2 授業参観カードの活用	8
3 ワークショップ型授業研究	10
4 ワークショップ型授業研究におけるワークシート	11
V 学び合うビデオカンファレンス	12
1 ビデオによる授業記録	12
2 ビデオカンファレンス実施上の留意点	13
3 ビデオカンファレンスの実施形態	13
【引用・参考文献】	14

授業研究・教師の学び ～指導力向上のために～

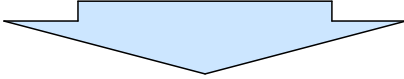
I 鹿児島県の教員に求められる資質とは

- かがしま教員育成指標が策定された背景
- かがしま教員育成指標の見方
- 総合教育センター作成のT-TRASTEの活用



学びを実感！研修履歴ファイル
T-TRASTE
Teacher's Training Steps


基本情報入力 自己評価 研修の記録



II 授業研究とは

授業研究の目的

- 1 授業での児童生徒の思考過程を理解する。(児童生徒理解)
- 2 授業での教師の判断・意志決定を学ぶ。(授業計画力)
- 3 授業での効果的な発問・応答・教具・板書を学ぶ。(指導技術)
- 4 議論を通して授業観・教材観を学ぶ。(教材解釈・教材開発)



III 一人で行う授業研究

教師一人一人が自らの手による授業実践への振り返りからスタート

←

ノートの点検

ビデオ録画の視聴

質問カードの活用

授業ノートの記入

児童生徒による授業評価

IV 同僚性・協働性を高める全体授業研究

事前検討会の実施

- 全員の意見を生かした指導案作成
- 参観のポイントを共有化する模擬授業の実施

[自由参観] 授業参観の日常化


[全体参観] 課題と改善策の共有化

[ビデオカンファレンス] 参観の焦点化や効率化

ワークショップ型授業研究

- ファシリテーターのリードで参加者全員が意見を出し、協議することで得られる新たな気付きや見方・考え方の深まりなどを重ね合わせながら共同で課題を解決していく授業研究
- ワークシートの工夫が重要

「授業参観カード」等が必要な場合は、教育委員会を通じて、教育事務所へ御相談ください。




V 学び合うビデオカンファレンス

- 焦点化して何度か繰り返し見ることで、詳しく授業を分析したい場合
- 全員で授業参観をする時間が取れない場合

→

ビデオカンファレンス

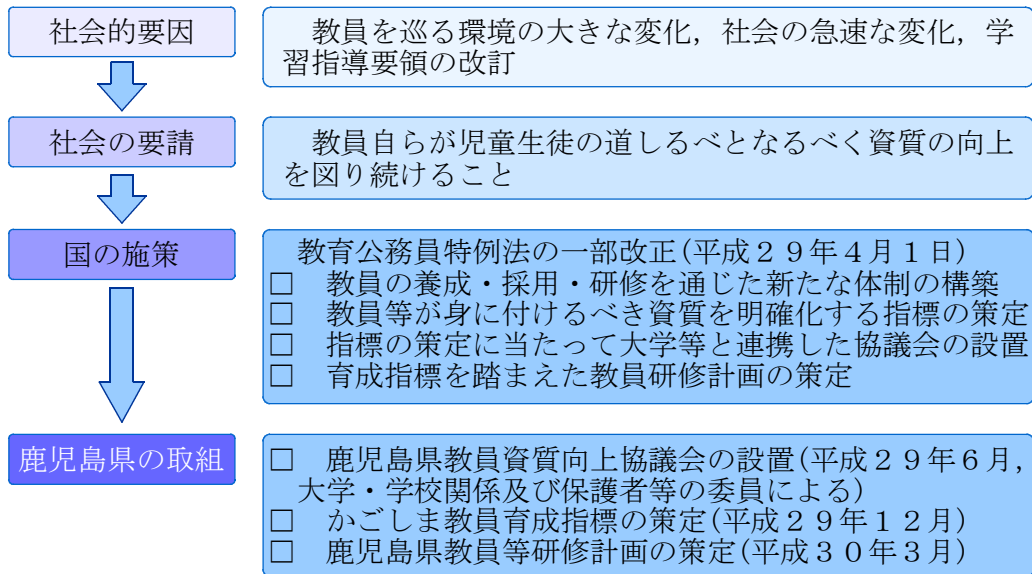
録画された授業実践に基づいて、教師の指導などについて集団で検討し、専門性を高める研究会



I 鹿児島県の教員に求められる資質とは

1 かがしま教員育成指標(以下、育成指標という。)の活用

(1) 育成指標策定の背景



(2) 育成指標の見方

「今の自分に必要な資質は何か」、「今後、どのような資質を高めていけばよいか」、そんな先生方が、キャリアステージにおける自身の目標を設定するときや、今後、目指すべき資質を明らかにするときに役立てられるよう経験及び適性にに応じて身に付けるべき資質を整理し、「見える化」したものが育成指標です。

かがしま教員育成指標(教諭等)

<p>本県の校長及び教員としての素養は、人権尊重の精神を基盤とした教育を実践するために、年齢や経験等に関係なく誰もが身に付けておくべき資質として位置付けられています。</p>	鹿児島県の教員としての素養	人間性・社会性	豊かな人間性と広い視野をもって、他者との信頼関係を築き、多様な発想のもとに鹿児島の未来を担う児童生徒と深く関わる力				
	職責感・使命感	教育に携わる者としての崇高な使命感を自覚するとともに、教育公務員としての職責観・倫理観をもって職務を遂行する力					
	探究心・自己研鑽	常に謙虚な姿勢で自己研鑽に努め、教員として必要な資質や教科の専門性を個及びチームとして主体的に高める力					
	教育に対する情熱	鹿児島の教育的な伝統や歴史を生かし、児童生徒のよりよい未来の実現に向けて、人権教育を基盤とした教育にかける信念や愛情と豊かなコミュニケーション能力をもって児童生徒へ働きかける力					
<p>段階的に教員一人一人に身に付けてほしい資質を求められる資質とし、 □ 学習指導力 □ 生徒指導力 □ 連携協働力 □ 課題対応力の4点を設定しました。さらに、それぞれの資質に具体的な細目を設定しキャリアステージに合わせて、資質を積み上げるイメージで定めています。</p>	求められる資質	ステージ	養成期	I 初任期	II 発展期	III 充実期	IV 円熟期
	学	学習指導の構想・実施	学習指導要領における目標や内容等を理解している。	学習指導要領に基づき、適切な指導計画を構想できる。	自校の教育目標に基づく適切な指導計画を作成できる。	自校や地域の実態を踏まえた指導計画の改善ができる。	実態を踏まえたカリキュラム・マネジメントの構想ができる。
	習	学習指導の展開	学習指導に必要な基礎的技術を身に付けている。	基礎的技術を生かした学習指導ができる。	児童生徒の実態に応じた学習指導ができる。	実態に応じた学習指導と同僚への助言ができる。	実態に応じた学習指導と同僚への指導・助言ができる。
	力	学習指導の評価・改善	評価の考え方や基礎的な学習理論を理解している。	児童生徒の実態に応じた評価を生かした指導ができる。	児童生徒の評価に基づく授業改善ができる。	児童生徒の実態に応じた評価の工夫ができる。	自校の実態に基づく評価と指導計画の改善ができる。

各キャリアステージの教職経験年数は、あくまでも目安です。採用時の年齢や経験した役割、校務分掌等により一人一人が自身の現状を把握し、求められる資質ごとに自らのステージを設定してみましょう。

(3) 育成指標の使い方

私たちが教員生活を続けていく中で人事異動や悉皆研修のタイミング、担当する校務分掌などの視点で育成指標を絡ませながら自身のキャリアをデザインし描いてみましょう。

- いつ?……年度当初の目標設定時よりもより、OJT、校内研修などの場面で。
- 誰と?……個人内で。同僚同士で。メンター、メンティと。
- どのように?……目標を設定するとき。目標が達成できたか自身を振り返るとき。自己の力量形成を図るための研修を選ぶとき。研修を企画するとき。

主体的かつ計画的・効果的に学び続けるためにも育成指標を目安にしながら資質向上を図っていきましょう。

2 総合教育センター作成「T-TRASTE(研修履歴ファイル)」の活用

T-TRASTE(研修履歴ファイル)は、育成指標に基づき、自身の資質向上を図るツール(エクセル形式)として総合教育センターが作成したものです。

T-TRASTEを活用すれば、育成指標に示された「求められる資質」を視点として、次のことに役立ちます。

- 自分の状況を簡単に自己評価できます。
- 自己評価の結果から、高めたい資質や強みが分かります。
- 資質向上を図る研修計画の立案に生かすことができます。
- 受講した研修や出席した講演会をはじめ、自己研鑽した内容等を記録することができます。
- 研修等の履歴から、自分の資質の状況を把握することができます。



[サイト構成]

基本情報

入力年度 **2020** 年度 ※自動表示されます。

職名 **教諭** ※必ず入力してください。リストに職名がないときは、直接入力してください。

教職経験年数 **20** 年 ※必ず入力してください。

※入力内容を確認して、右の「入力」ボタンをクリックしてください。なお、「入力」ボタンをクリックすると、トップページに戻ります。

入力

学習指導力1

あなたのキャリアステージに応じた「学習指導力」の「学習指導の構想・実施」に関する求められる資質です。

今の自分の状況を振り返り、3段階で自己評価してみましょう。

☆「学習指導の構想・実施」に関する求められる資質

「**自校や地域の実態を踏まえた指導計画の改善ができる。**」

自己評価欄

※自己評価を中断する時は、下の「中断」ボタンをクリックしてください。

※自己評価したら、下の「次へ」ボタンをクリックしてください。

※自己評価 ◎:十分身に付いている
○:概ね身に付いている
△:不十分である

中断 **次へ**

受講研修

ここでは、受講した研修等を記録したり、その結果を分析して、自分の資質の状況を確認することができます。

研修等の記録 ※研修等を受講するたびに、記録として入力します。

研修履歴一覧 ※記録した研修等を一覧表で確認できます。

研修受講後の資質の状況 ※研修等を受講したことで、自分の資質がどのように変化したが、その状況を確認できます。

トップページへ戻る

「かごしま教員育成指標」を視点とした自己評価結果

2020/6/19

下の表は、あなたの自己評価結果です。朱書きの「※」の位置があなたのキャリアステージです。自己評価で、「◎」を付けた項目は赤色、「○」を付けた項目は黄色です。自己評価結果から、あなたが向上を目指す資質を「★」、あなたの強みとなる項目を「☆」で自動表示しています。今後の資質向上に向けた取組を計画する際の参考にしてください。

経年昇進に基づくキャリアステージ	1・初任期 1～5年経歴項目	2・初任期 6～10年経歴項目	3・初任期 11～20年経歴項目	4・初任期 21年経歴項目～	向上を目指す資質	強みとなる資質
学習指導の構想・実施	学習指導の構想・実施	自然の教育目標に基づいた教育計画の作成ができる。	自然の教育目標に基づいた教育計画の作成ができる。	自然の教育目標に基づいた教育計画の作成ができる。	◎	☆
学習指導力	学習指導の展開	基礎的技術を身に付けた学習指導ができる。	授業実践の実態に応じた学習指導ができる。	実践に応じた学習指導と授業への対応ができる。	◎	☆
学習指導の記録・分析	授業実践の分析・評価	授業実践の分析・評価	授業実践の分析・評価	授業実践の分析・評価	△	
授業実践の理解	授業実践の理解	一人一人の環境を理解し、適切な指導ができる。	一人一人の環境を理解し、適切な指導ができる。	一人一人の環境を理解し、適切な指導ができる。	○	
学習指導力	学習指導の展開	授業実践と関係する指導ができる。	授業実践と関係する指導ができる。	授業実践と関係する指導ができる。	◎	☆

出力

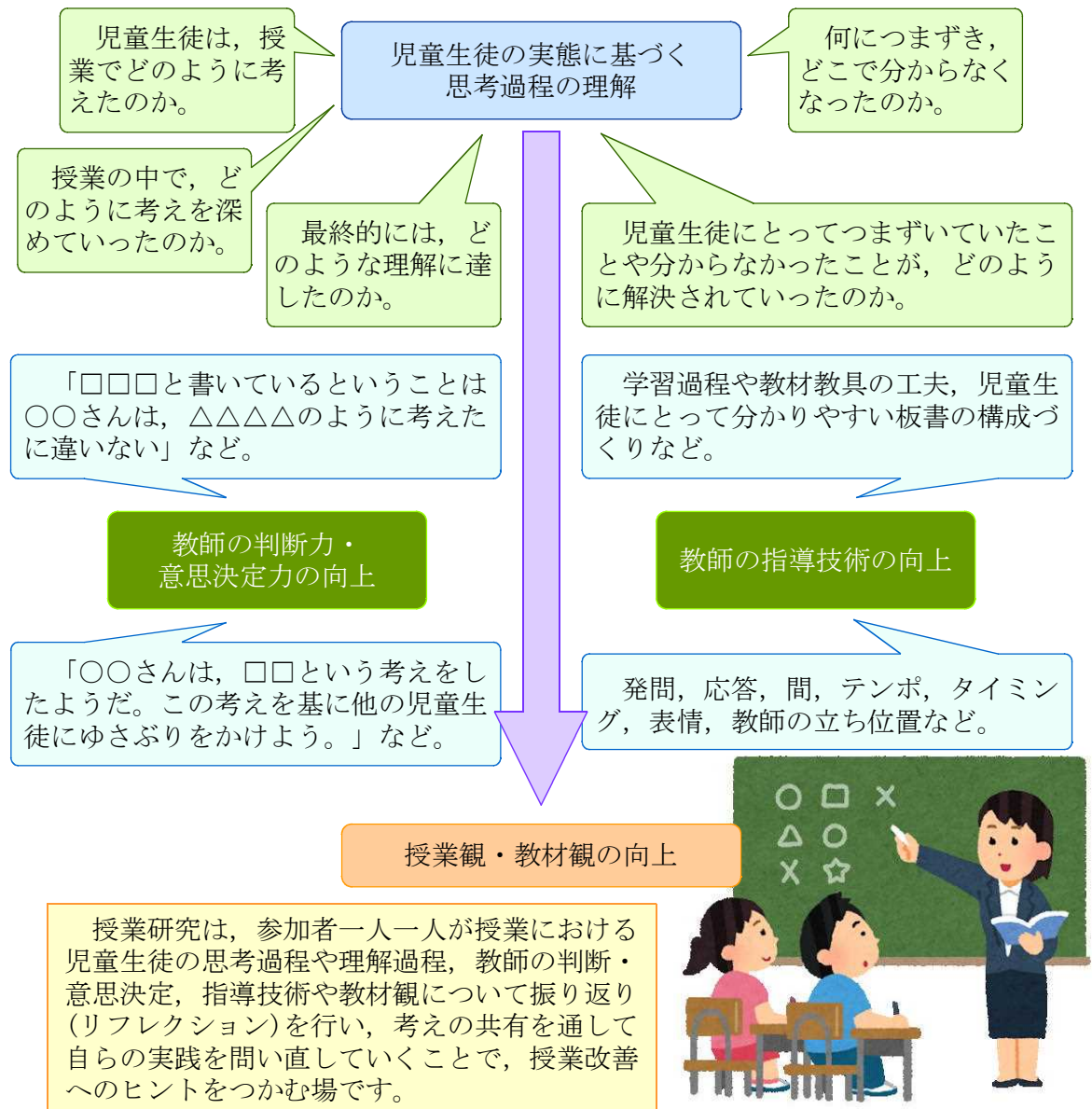
入力することで、自分の状況を確認してみましょう。

Ⅱ 授業研究とは

日本、アメリカ合衆国、ドイツ連邦共和国の3か国の授業を比較調査した結果をまとめた報告書「ティーチング・ギャップ」において、著者のキャサリン・ルイスは、日本の教師が高度な指導技術を身に付けていることを称賛しています。その要因として取り上げられているのが授業研究です。この報告書がきっかけとなり、世界各国も授業研究を「レッスンスタディ」と呼び、研究が進められるなど、授業研究は世界でもその意義が認められています。

しかし、その授業研究も「どんな方法で」に関心が集中し、「何のために」という目的が忘れられたり、批判的なコメントがタブー視されたりするなど形式化、マンネリ化してしまい、効果が薄れている例も見られます。今一度、授業研究の目的と分析方法とを明確にして取り組みましょう

授業研究の目的	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業での児童生徒の思考過程を理解する。[児童生徒理解] (2) 授業での教師の判断・意志決定を学ぶ。[授業計画力] (3) 授業での生きた発問・応答・教具・板書を学ぶ。[指導技術] (4) 議論を通して、授業観や教材観を学ぶ。[教材解釈・教材開発]
---------	---



Ⅲ 一人で行う授業研究

授業研究は、本来授業者の授業実践を出発点として行われるもので、自分自身であるいは同僚との検討を経て、最終的には授業者の内省を促し、日々の授業改善へと向かっていくものです。その意味から、まず教師一人一人が自らの手による授業実践への振り返りから出発していく必要があります。

管理職の指導や同僚からの助言、学校で行われる授業研究を待つまでもなく、日々の教室で次のような工夫を行い、自分自身で研究を深め、資質向上に努めたいものです。

1 放課後の振り返り

放課後の教室で、今日の授業の中で気になったことを振り返る。

- (1) なぜ〇〇さんは、国語の授業中にうかない顔をしていたのだろうか。
- (2) なぜBさんは、ぼんやりとしていたのだろうか。
- (3) 今日の授業で一番印象に残ったエピソードは、〇〇さんと□□さんのやりとりだな。
- (4) 〇〇さんの言葉は、重く受け止めないとな。
- (5) 〇〇さんの一言には、感動したなあ。
- (6) あの発言は、まずかったなあ。子供がぼかんとしていたな。



2 ノート(ワークシート)の点検

- (1) ノートのまとめ分析
学習のまとめを分析して、児童生徒の到達(達成)状況を確認する。
- (2) 誤答の分析
目標へ到達(達成)していない児童生徒の記述を基に、その児童生徒の思考過程や理解過程をたどりながらなぜそのように考えたのかを探る。
- (3) 発問や指示、言葉かけの適否を検討する。
特定の児童生徒への対応を含めて発問や指示、言葉かけについて検討及び内省を行う。



3 授業ノートへの記入

次のような内容の授業ノートを作成し、その日のうち(授業中や休み時間放課後など)に記録し、授業を振り返る。

- (1) 授業全体に対する反省をタイトルとして記入(このタイトルが授業に対する振り返りの中心)
- (2) 本時の目標の適否
- (3) 工夫した学習活動の適否(目標との関連、特徴的な児童生徒の反応など)
- (4) 主発問の適否(児童生徒の発言から)
- (5) 教師の反応や言葉かけの適否
- (6) 児童生徒の感想
- (7) 授業中のエピソード



4 授業録画データの視聴

ICT機器で自分の授業を記録し、その動画データを視聴することで、自らの授業を振り返る。この場合、記録する対象は、次のように絞った方が効果的である。

- (1) 教師の発問や指示に対する児童生徒の発言・反応
- (2) 児童生徒の発言・反応を受けた教師の言葉かけや反応
- (3) 教師の反応に対する児童生徒の再発言・再反応(納得した、積然としなない)など。



5 児童生徒による授業評価

次のような観点で児童生徒による授業評価を実施し、自らの授業を振り返る。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ア 教師の熱意 | イ 授業の難易度 |
| ウ 授業進度 | エ 学習活動のおもしろさ |
| オ 質問に対する教師の対応 | カ つまづきや間違いへの教師の対応 |
| キ 教師の発問や説明の分かりやすさ | ク 発表の機会の確保 |
| ケ 話合いの設定 | コ 板書の仕方 |

[児童生徒の授業評価カード(例)]

(4：当てはまる，3：まあ当てはまる，2：あまり当てはまらない，1：まったく当てはまらない)

番号	質 問 事 項	評 価
1	先生は、熱心に教えてくれましたか。	4 3 2 1
2	授業は、分かりやすかったですか。	4 3 2 1
3	先生の授業の進め方は、ほどよい速さでしたか。	4 3 2 1
4	考える時間は、十分ありましたか。	4 3 2 1
5	今日の学習課題(問題・めあて)は、やりがいがありましたか。	4 3 2 1
6	今日使ったワークシートや資料などは、役に立ちましたか。	4 3 2 1
7	分からないことを気軽に先生に聞くことができましたか。	4 3 2 1
8	先生の質問や説明は、分かりやすかったですか。	4 3 2 1
9	先生は、考える時間を十分に与えてくれましたか。	4 3 2 1
10	先生は、たくさん発表させてくれましたか。	4 3 2 1
11	友達とよく話し合うことができましたか。	4 3 2 1
12	ノートをとる時間は、十分でしたか。	4 3 2 1
13	板書に書かれていることは、分かりやすかったですか。	4 3 2 1
14	板書の字は、見やすかったですか。	4 3 2 1

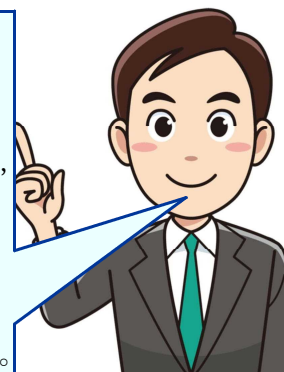
[先生へのリクエスト]

※ 先生にお願いしたいことがあれば、書いてください。



授業評価は、「わかる授業」を目指し、学校組織として多面的・多角的に授業を評価することで、学校全体の授業改善につなげていくものです。今までも教員は、児童生徒が学習を理解したかどうか、様々な方法で評価を行ってきました。しかし、授業が児童生徒にとって本当にわかるものであったかどうかは、学習の主体者である児童生徒が実際に授業をどのように受け止めたのかを把握することなしに検証することはできません。そこで、上掲したような児童生徒による授業評価を取り入れることが必要です。

児童生徒一人一人の声に耳を傾け、自分の授業を客観的に見つけ、不十分な点は、反省・改善していくように努めましょう。

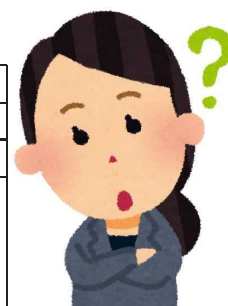


6 質問カードの活用

次のようなカードを利用して、授業中によく分からなかったことやより深く理解したいことなどに関する質問や授業への要望などを児童生徒に記入させ、それを基に授業を振り返る。

[質問カード(例)]

月 日 ()	校時	学年・組・番号	年 組 番
教科等	氏 名		
質問・要望・意見		先生から	



IV 同僚性・協働性を高める全体授業研究

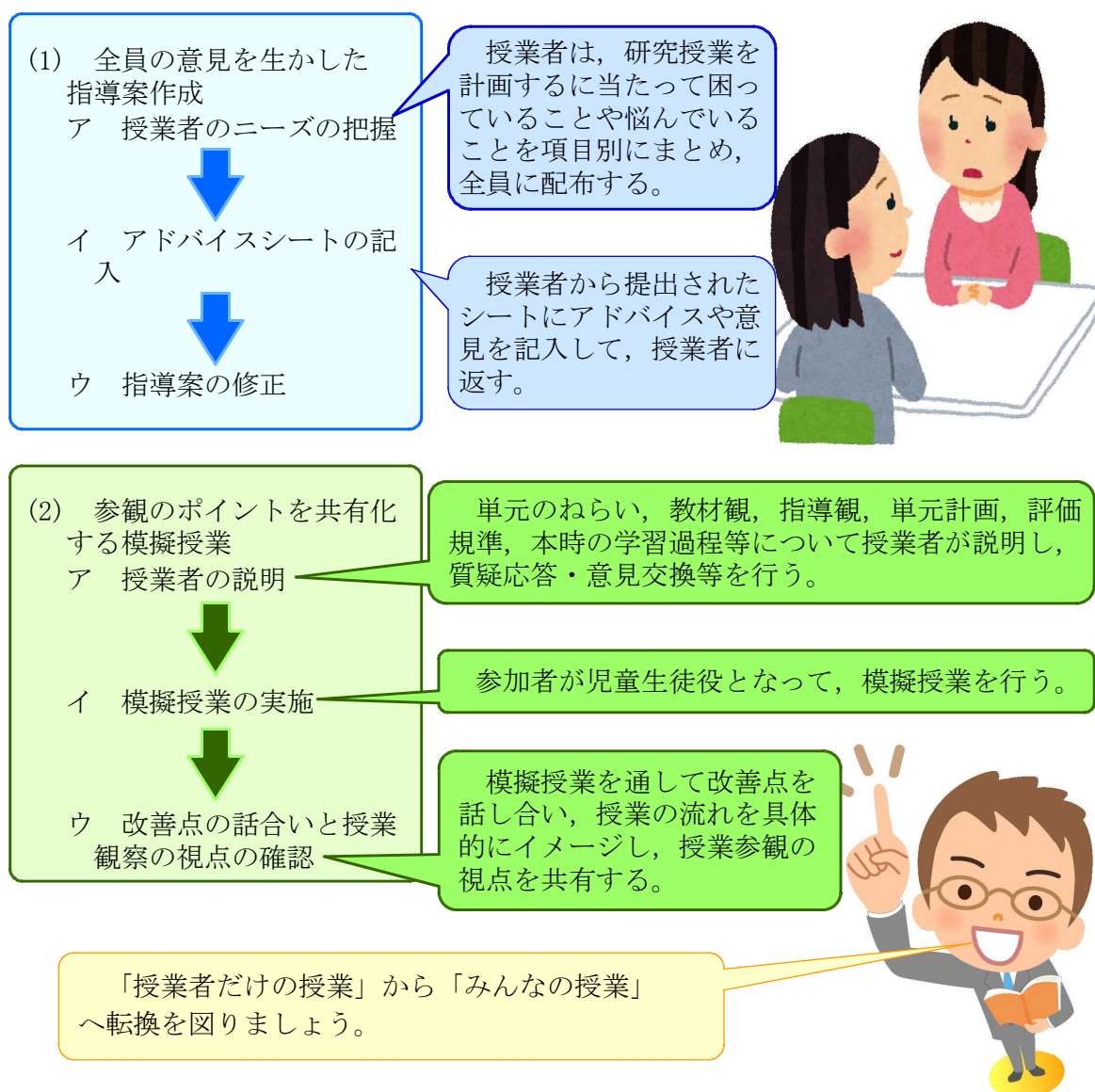
ここでいう「同僚性」とは、簡単に言えば同僚同士が授業を参観し合い、それぞれの知識や経験を基に話し合いながら、相互に授業力を高めていけるような関係を指します。また、「協働性」とは、お互いのよさを理解し、それぞれに適する役割を担って教育活動を行っていく態勢を意味します。

一人で行う授業研究は、自らの手による自らのための授業研究であり、授業研究の基本となるものですが、児童生徒に確かな学力を身に付けさせるためには、管理職の指導の下、同僚と協働しながら次のような授業研究を行い、チームで取り組んでいく必要があります。

1 事前検討会の実施

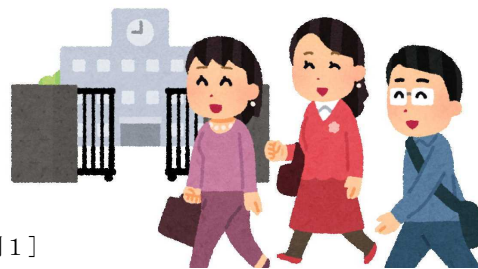
研究授業を学校全体の成果にするためには、研究授業前の「事前検討会」が有効です。授業者が他の教職員からヒントやアドバイスをもらえるようなシート(アドバイスシート)を作成し、情報を集めることから始めましょう。経験や年齢、指導観などの異なる人の意見を聞くことで、授業の構想や展開、評価等の考え方を広げることができます。

また、授業者と参観者が一緒に事前研究を行うことで、全員で一つの授業を作り上げていくという意識をもつことができ、授業参観のポイントも明確になり、授業研究も焦点化していくことができます。



2 授業参観カードの活用

授業参観の際、参観の目的と視点を明確にしておく、分析的に評価をすることができ、授業研究での協議も焦点化されるとともに、効率的でより深まりのあるものになります。そのためにも次のようなカードの活用を工夫しましょう。



[授業参観カード例1]

期 日	月 日 ()	校 時	授 業 者	
観 点	評 価	今日授業でよかった点		改善が必要であると感じた点
目標の明確化				
山場の工夫				
確かめ・見届け				

[授業参観カード例2]

授業日	令和 年 月 日 ()	授 業 者	
観 点	参 観 の 具 体 的 な 視 点		評 価
目標の明確化	1 効果的な教材教具の活用，体験活動などにより，興味関心が生まれる導入や課題の焦点化がなされるなど工夫されていた。		4 3 2 1
	2 問題解決的な学習にするためのめあて(疑問型)が設定されていた。		4 3 2 1
	3 児童生徒が，解決の方法や順序を理解し，ゴールイメージをしっかりともてるよう工夫がされていた。		4 3 2 1
山場の工夫	4 児童生徒が自らの考えを確かなものにするための「書く活動」が設定されていた。		4 3 2 1
	5 児童生徒の自力解決を支える資料やワークシートが工夫されていた。		4 3 2 1
	6 児童生徒が，根拠や理由付けを明確にもつことができるよう工夫されていた。		4 3 2 1
	7 教師の解説ではなく，児童生徒が説明するよう求めていた。		4 3 2 1
	8 ペアやグループなど考えを交流する対話などが工夫されていた。		4 3 2 1
	9 児童生徒の発言に対しては，根拠や理由について積極的に問いかけていた。		4 3 2 1
確かめ・見届け	10 1時間の授業のまとめを児童生徒に記述させていた。		4 3 2 1
	11 記述式の学習のまとめの際には，条件や制限が設定されていた。		4 3 2 1
	12 児童生徒が記述した学習のまとめが交流されていた。		4 3 2 1

[授業参観カード例3]

(4 : よく当てはまる, 3 : まあ当てはまる, 2 : あまり当てはまらない, 1 : まったく当てはまらない)

月 日()		授業者名			
教科等名		単元・教材名			
授業のタイトル		授業参観のねらいに応じて、必要に応じて視点を変更する。		全てを評価したり、必要に応じて視点を絞ったりして実施する。	
過程	番号	参観の視点			評価
目標の明確化	1	興味・関心を引き出す導入課題であった。			4 3 2 1
	2	素朴な疑問・葛藤・矛盾を学習問題へ焦点化させる工夫をしていた。			4 3 2 1
	3	学習問題(課題)・めあてが提示されていた。			4 3 2 1
	4	学習の順序・方法・時間が提示されていた。			4 3 2 1
	5	学習の手引など自力解決・相互解決を支える工夫がされていた。			4 3 2 1
山場の工夫	6	本時の目標に正対した学習活動が工夫されていた。			4 3 2 1
	7	自力解決のための教具やワークシートが準備されていた。			4 3 2 1
	8	自力解決のための指導がなされていた。(ヒントカードやコーナー, 机間指導)			4 3 2 1
	9	自力解決を深める対話活動(ペア・グループ)が設定されていた。			4 3 2 1
	10	児童生徒の援助要請に応じて, 級友が教える場が確保されていた。			4 3 2 1
	11	教師は, まなざし・表情・身振りで働きかけていた。			4 3 2 1
	12	つまずいたり, 間違ったりしている児童生徒に丁寧に対応していた。			4 3 2 1
	13	思考を深める発問があった。(解釈・類推・比較・対比・転換・結合等)			4 3 2 1
	14	思考を深める言葉かけがあった。			4 3 2 1
	15	ゆさぶり発問があった。(つまずきを拾って, 正答の吟味, 新しい解釈, 対比, 視点変化, 疑い, 否定など)			4 3 2 1
確かめ・見届け	16	学習内容定着のための演習やドリルがあった。			4 3 2 1
	17	児童生徒自身が条件や制御を守って, 学習課題に対応したまとめを記述していた。			4 3 2 1
	18	目標への達成(到達)度に基づく補充・深化・発展の場があった。			4 3 2 1
	19	児童生徒自身が自らの理解過程や思考過程を振り返って記述していた。			4 3 2 1
	20	次時の学習への橋渡しがなされていた。			4 3 2 1
今日の授業でよかった点				改善が必要であると感じた点	

自由参観型の授業参観で授業参観の日常化を!

教師が自主的に授業を公開し, 互いの授業を自由に参観し合い学び合うことが大切です。

- 授業提供者は, 参観者に対して「授業のこんなところを見てほしい」などの参観の視点を事前に示し, 意見をもらうことで, 授業提供者のニーズに応じた意見をもらうことができます。
- まとまった参観の時間が取れない時は, 導入部分だけとか板書だけを参観するなどのポイント参観を行い, 放課後等にミニ授業研究を行うことで, 日常的な授業研究につながる事が期待されます。

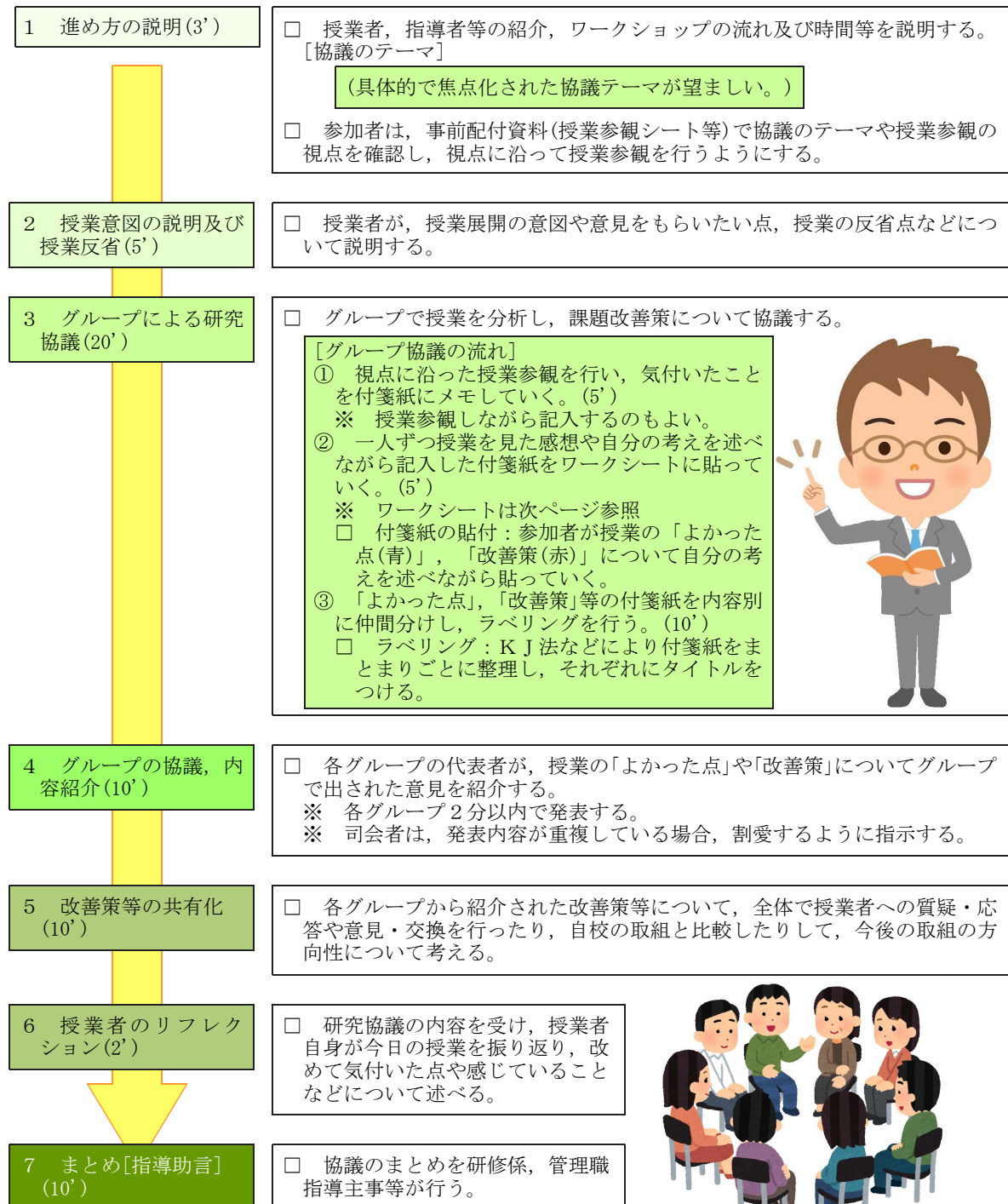


3 ワークショップ型授業研究

ワークショップとは、「参加者同士で意見交換を重ねて課題を解決したり、そのための討議を体験したりしていく研修会」です。そして、ワークショップ型の授業研究とは、ファシリテーター(進行・まとめ役)のリードで、参加者全員が意見を出し、意見交換をすることで得られる新たな気付きや見方・考え方の深まりなどを重ね合わせながら、共同で課題を解決していく授業研究のことです。全体研修や数人での教科研修、学年部研修など幅広い活用が望まれます。



ワークショップ型授業研究の進め方(例)[60分の場合]



4 ワークショップ型授業研究におけるワークシート

ワークシートを用いると、分析の視点が明確になり、作業の効率化を図ることができます。

ワークシートをどのような形にするのかは、授業研究を活性化する一つのポイントです。協議の目的に応じて、どのシートを使用するのか下記を参考に工夫しましょう。



(1) マトリクスシート

	目標の明確化	山場の工夫	確かめ・見届け
成果			
課題			
解決策			

【特徴】

- あらかじめ検討の視点を定めておき、その視点についての成果と課題及び改善策を協議したい場合に適したシートです。
- 全員で改善策まで考える形式になっているので、「全員で」という意識を醸成できるとともに、今後の実践につなげやすくなります。

【留意点】

- 同じ内容に対して評価が分かれる場合、付箋紙の置き方を工夫すると効果的です。

(2) 時系列シート

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
導入			
展開			
終末			

【特徴】

- あらかじめ拡大コピーしておいた本時案に直接付箋紙を貼るシートです。（左の例はイメージしやすいよう簡略化したものを示してあります。）
- 学習指導案と実際の授業を対比しながら進めるような研修に適しています。

【留意点】

- 意見が出やすい反面、仲間分けに時間を要します。視点を明確にして記入すると効率的です。

(3) 四象限シート

	よかった点		
児童生徒			教 師
	学習規律	発問	教材・教具
	個人差	意見の 取り上げ方	
	改善点		

【特徴】

- 教科等部会で検討する場合や授業の全体を捉えたい場合などに有効なシートです。
- 横軸は、児童生徒の姿と教師の指導、あるいは検討の視点を、縦軸はよかった点と改善点にします。横軸に置いた事項には、焦点化された分析ができます。

【留意点】

- 改善策まで考える場合には、新たに大きな付箋紙を使って記入するなどの工夫が必要です。

V 学び合うビデオカンファレンス

カンファレンスとは、主に学術的な会議や研究会、協議会、検討会などのことです。例えば、医師が患者の診断や治療法について集団で交流しつつ、医師としての専門的力量を高める研修会などもカンファレンスといえます。

ここでいう授業研究におけるビデオカンファレンスとは、「録画された授業実践に基づいて、教師の指導方法などについて集団で検討し、教師としての専門性を高める研修会」と捉えられます。この方法は、授業参観を通じた授業研究を行う際に焦点化して何度か繰り返し見ることによって詳しく授業を分析したい場合や全員で授業参観する時間が取れない場合などに効果的です。

1 ビデオによる授業記録

(1) ビデオカメラの位置

ア カメラが2台の場合

(ア) カメラのセット位置

置は、基本的に児童生徒と教師の様子がとらえられる位置であればよい。

(イ) カメラが2台の場合は、左図のように配置する。

a カメラ1

主として児童生徒を追う。
窓側に設置する。

b カメラ2

主として教師を追う。

(ウ) 手ぶれを防ぐために三脚等で固定する。

イ カメラが1台の場合

(ア) カメラのセット位置に関する基本的な考え方は、カメラ2台の場合と同様である。

(イ) カメラが1台なので、教室の窓側に配置する。

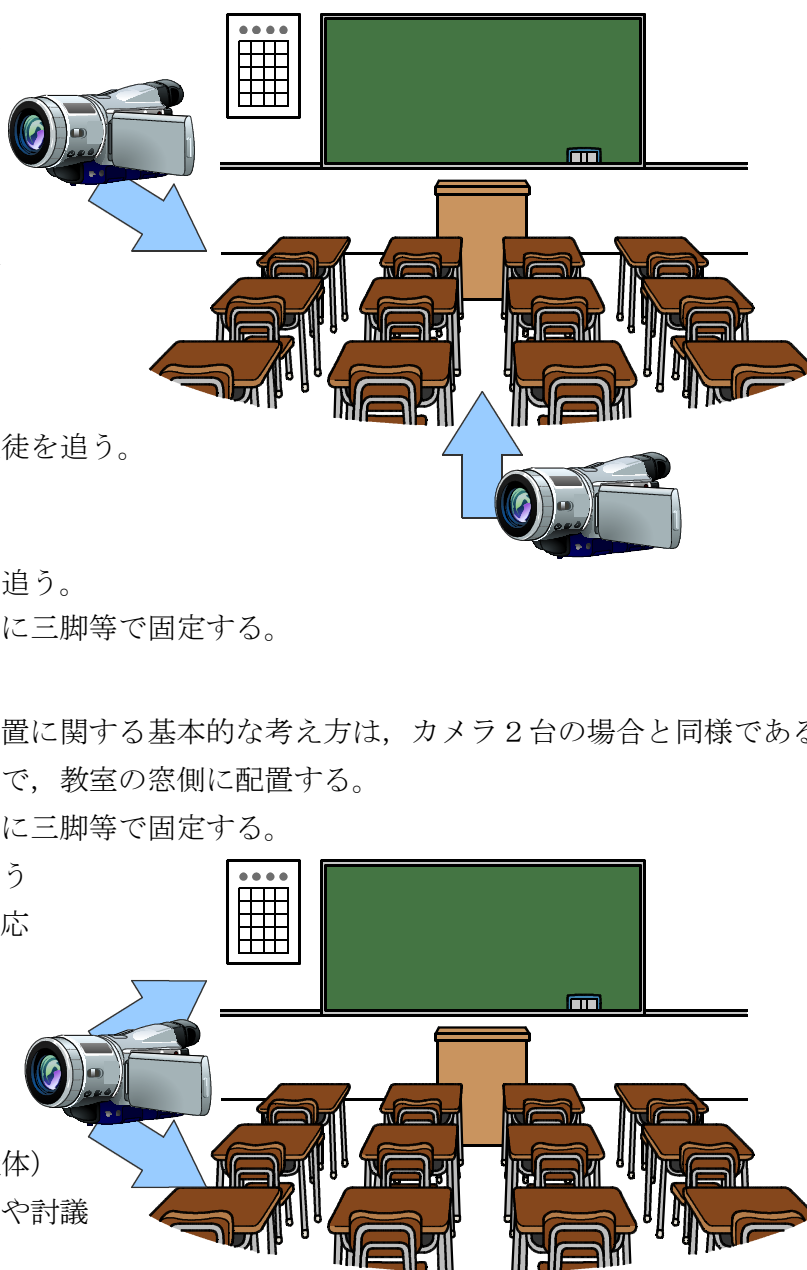
(ウ) 手ぶれを防ぐために三脚等で固定する。

(エ) 授業の中の次のような場面では、必要に応じて手持ちとする。

a 自力解決時

b 相互解決における話し合い（ペア・グループ・学級全体）

c 授業研究の視点や討議の柱に関わる場面



(2) 録画上の留意点

- ア 目的に応じて、全体、グループ、ペア、一人の児童生徒など撮り方を工夫する。
- イ 発話者にレンズを向ける。アップで撮るのもよい。また、発話時の表情、トーン、非言語的な表現も確実に拾う。
- ウ 特定の相手に対して発話している時には、その相手も捉える。
説明→疑問の表出→補説→疑問の再表出などのやり取りが分かるように撮影する。
- エ 児童生徒の学習状況が、分かるようにする。
 - (ア) 教師の発問への反応……学級全体の挙手の状況や応答の状況は、どの程度か。
 - (イ) 自力解決時の活動状況
- オ 授業の流れが分かるように、次のような時には教師にもレンズを向ける。
 - (ア) 学習問題(課題)、めあての設定時 (イ) 発問、応答、助言、支援など
 - (ウ) 学習の節目や場面転換時 (エ) 実演、モデル提示
 - (オ) 学習のまとめを行っている時
- カ 重要な板書をしている場面
- キ 最終的な板書
- ク 児童生徒の学習のまとめや振り返り
- ケ 撮影時刻、経過時間の表示



2 ビデオカンファレンス実施上の留意点

- (1) 教科等の壁を越える。
 - ア 教師が「教えたこと」を児童生徒が「いかに学びとったか」という視点で語り合う。
他教科等や他学年の教師の「分からないよね」、「難しいんじゃない」などといった率直な感想を大切にする。(ありのままの児童生徒の姿を基に話し合うことが大切である。)
 - イ 教材解釈や目標設定などについては、授業者の立場を尊重し、その妥当性については触れない。教材解釈を学ぶことが、カンファレンスの中心ではない。
 - ウ 特定の理論や教材への専門的知識を述べることは控える。
- (2) 授業を参観して発見した事実を固有名詞で述べる。
 - ア 教室の雰囲気
 - イ 児童生徒の活動の様子、表情、発表・発言、ささやき・つぶやき
 - ウ ノートやワークシート、メモへの書き込み
 - エ 思考過程や理解過程、学習への意欲
 - オ 教師と児童生徒における発問と応答、言葉かけのつながりやすれ違いなど
- (3) 自らの経験と照らし合わせて語る。
- (4) 教師の指導技術について語る。
- (5) 授業における課題の解決(修正)策については、必ず児童生徒の姿を基に述べる。ただし、無理に一つにまとめない。
- (6) その他、気付いたことを語る。
目立たない児童生徒へのケア、つまづいた児童生徒や間違った児童生徒へのフォローなど
- (7) 必ず全員が発言する。
上記(1)～(6)の視点での発言が難しい場合は、学んだことや感想を述べる。

3 ビデオカンファレンスの実施形態

- (1) 授業参観
 - ア 教師全員による授業参観
ビデオ録画をしながら、教師全員が授業を参観し、その後事前に設定された研修の時間等を活用してカンファレンスを行う。
 - イ 一部の教師による授業参観
全ての授業を全員で参観することは、授業時数との関係で難しい面がある。そこで、参加可能な教師による授業参観とカメラによる収録を行い、放課後等を活用してカンファレンスを行う。
- (2) ビデオ視聴時間の工夫
 - ア 一通りの授業の展開に沿って行う。
 - イ 協議の柱や授業研究の視点にそっていくつかの場面で行う。
 - ウ 必要に応じてストップモーションで行う。

【引用・参考文献】

「計画的・効果的な資質の向上を目指して かがしま教員育成指標の見方・使い方」

平成31年 鹿児島県教育委員会

「授業モデルを活用した校内研修を拓く～『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて～」

平成31年 独立行政法人教職員支援機構

「かがしま教員育成指標」 平成29年 鹿児島県教育委員会

「授業力を高める校内研修の進め方～みんなで取り組み、学び合う授業研究を通して～」

平成26年 鹿児島県総合教育センター

「みんなで取り組み、学び合う授業研究～授業力やチームワークの向上を目指して～」

平成23年 鹿児島県総合教育センター

「校内研修ハンドブック～授業研究の充実を目指して～」

平成19年 京都府総合教育センター



「ドラゴンアイ（龍郷町）」



「徳之島の闘牛（徳之島町）」